

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年4月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和6年4月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

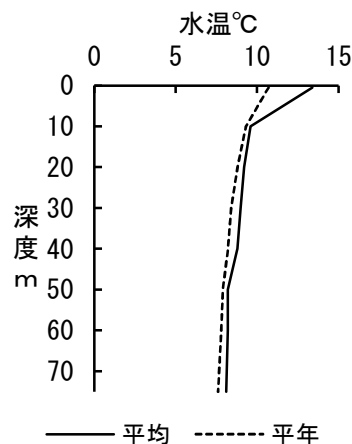
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年～2023年(平成26年～令和5年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 4月平均値 4.7m 平年値 5.7m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	13.4	10.7	+2.7
10	9.6	9.3	+0.3
20	9.2	8.8	+0.4
30	9.0	8.4	+0.6
40	8.8	8.2	+0.6
50	8.2	7.9	+0.3
60	8.2	7.8	+0.4
75	8.1	7.6	+0.5



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
3月下旬	8.8	9.2	-0.4
4月上旬	12.0	10.2	+1.8
4月中旬	13.6	11.4	+2.2

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	9.9	13.8	-3.9
10~20	3.9	4.7	-0.8
20~40	1.9	1.7	+0.2
40~75	0.9	0.7	+0.2

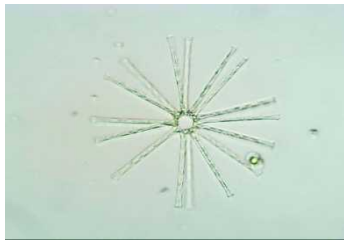
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、地点Iでは*Asterionella formosa* (ホシガタケイソウ:珪藻)が、地点IVでは*Aulacoseira ambigua* (アウラコセイラ:珪藻)が細胞数で最も多く認められたが、*Micrasterias hardyi* (ミクラステリアス:緑藻)も量的には両地点で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、地点Iでは*Kellicottia Longispina* (トゲナガワムシ:ワムシ)が、地点I以外の全地点ではカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Asterionella formosa



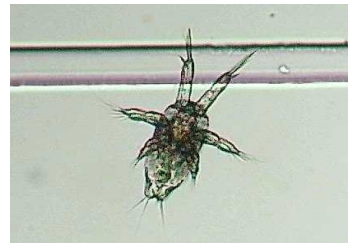
Aulacoseira ambigua



Micrasterias hardyi



Kellicottia Longispina



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	4月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	12.5	119.7	11.7	106.0	0.8	(+13.7)
10	11.8	104.5	11.7	103.2	0.1	(+1.3)
20	11.5	99.9	11.5	100.3	0.0	(-0.4)
30	11.4	98.8	11.3	98.1	0.1	(+0.7)
75	10.4	88.2	9.9	83.3	0.5	(+4.9)